帝國議會議事筆記

第四期帝國議會は來る二十五日を以て召集せらる目下議員は各地より上京し來りて議院政略の研究に忙しく政海の波瀾漸く高さらんとす本社は豫てより準備整頓し居るを以て其の開會中は日々數名の筆記者を議院に派し院内議事の模様は詳細に筆記して日々の紙上に掲載し各派論爭の實況を讀者の眼前に寫出すべく而して院内の出來事は院外に於ける集會相談の結果に出るもの多ければ院外の模様は亦殊に探知を精細にし院内に於ける論戰の由て來る所を詳かにし讀者をして一讀帝國議會の内外表裏を詳悉せしむべし左れば開會中の紙面は常に十頁以上多きは十四頁十六頁となし諸種の議案は一日の紙面に掲げ終りて讀者の閲覧に便にし議會に關する記事に於ては毫末の遺憾なからしむると同時に目下漸く振興の兆を現はしたる殖産界の出來事も益々報道を詳細にし偏する所なきを勉むべし

ゆきゝのしをり

本社は讀者の訪問往來に便せんが爲め今度「ゆきゝのしをり」と云ふ欄を新設し日々都門を出入する紳士神商の着發等を掲げ讀者の便覽に供す此着發等に就ては本社既に探知の方法を設けたれども尚ほ遺漏なきを保せず朝野の紳士都門出入の際本社に一報あらんみとを請ふ

時事新報

自由黨の航路擴張案

自由黨にては今回の議會に提出す可き議案少なからざる中にも航路擴張案の如きは最も熱心に主張す可しと云へり抑も帝國議會は開設以來既に三回を開きて今回は既に第四回なれども其成蹟如何を問へば聊か答辨の辭に窮せざるを得ず數年前を回顧すれば國會開設の一事は滿天下の希望を繫きて人心の歸依一方ならず當に有志家政客の輩が之に熱して空想を逞ふしたるのみならず商賈家實業家の類に至るまでも大に望を屬したるは同一轍にして所謂大旱の雲霓を望むに異ならず或は其曉に至れば世間の景氣も回復して商賈は春色を催はして工業は秋實を收む可しとて只管その時機の到るを待ち設けたるものゝ如し國會の開設に不景氣回復の希望は無理なる注文にして實に淺墓なる次第なれども兎に角に斯る空想者を出したるは國民が立憲に望を屬したるの候として認めざるを得ず然るに愈々開設の實際と爲りて其始末を見れば第一期は種々雜擾の末、徒に無事に過ぎたれども第二期には解散の大騒動あり續て第三期も停會の不書尾を免れず而して其間に如何なる問題を議決して如何なる事業を爲したるやと問へば當局の政客中には自から說もあるみとならんと雖も單に議論の喧しきを見たるの外、一般の世間には絶えて利益を與へたるみとなく其僅にあれあるものは前後たゝ鐵道敷設法可決の一事のみなりと云ふも過言に非ざるが如し國會は世間に對して其開設前の人氣を全く失ひたるものと云ふ可し抑も政治の道は多岐なれども世間を賑にし人氣を取るの一事より大切なるはなし社會の風景を變了し人心を枯燥せしめて國の開明進歩を致したるの例は古來未だ曾て見ざる所なれば國會議員の人々も大に此邊に考へて政論は自から政論として別に論ずるみとゝなし一個人の力に及ばざる所謂國家事業に就ては大に金を散じて之を進むる計畫なきに於ては社會の人心次第に離れて愈々國會を厭ふの實を呈し其成行き甚だ妙ならざるものなきを期す可らず例へば議場にて每度議論の喧しき撰擧法改正の案の如き又は三大自由をて言論集會出版の自由を寛にする說の如き政論としては自から重大の問題なる可しと雖も一般社會の眼より見るときは今の撰擧法を改正して人民代表の主義を擴張するも言論以下の自由を得るも何も直接に利する所のものあるに非ざれば目下の時節に際し何事を差置きても先づ其改正自由を得んとて熱望する者はなかる可し又地租輕減地價修正の輩題の如きは民力休養云々とて專ら斯民の爲めに謀るの精神なりと云ふと雖も若しも身を實地に處して考へたらんには果して實行せらる可きものか、せられざるものか好し又みれを實行するも果して休養の目的を達し得べきか、得べからざるか自から問ふて自から答ふるに苦しむみとならん若しも第四期の議會も相變らず是等の問題に離離して因循姑息の中に終るみともあらんには國の事業は次第に退縮して社會の人心いよ〳〵雖れざるを得ず或は開明進歩の所産とも見る可き國會を却て其障害物たらしむるの極にも至らんかとて竊に我輩の掛念も少なからざりしに議會亦自から其人に乏しからず滔々たる政論の霧中より萬丈の光焰を吐き大に進歩の計畫を實にせんとするものを出したるは外ならず自由黨の航路擴張案即是なり其案の趣旨を聞くに大に日本の航路を擴張せんとするものにて歐洲及び濠洲の二線路を開き每月一回づゝ郵船を出すみとゝなし一個年往復十二回に要する航海費の收支を算するに歐洲線に於ては五十一萬二千七百圓餘濠洲線に於ては三十六萬七千八百圓餘合計八十八萬圓餘の不足を見るに付き此不足額を國庫より補助するときは充分自的を達す可しとの見込なりと云ふ其大體は我輩平素の持論にして微頭徹尾贊成を表する所なり思ふに實際には何は精密の調査を要するみともあらん又その金額に關しても過不足の談もあるみとならんなれども航路擴張の事たる目下の急にして一日も緩にす可きに非ざれば細目の箇條は他日の修正を待つも晩からずとして此案の議場に上るの日には滿場の一致を以て速に議決に至らんみと希望に堪へず果して斯くの如くなるを待ては國の爲め益する所少からざるは申す迄もなく國會の人望萬々歲ならんみと我輩の疑はざる所なり

官報

○宮内省達甲第六號

明治二十四年甲第四號達中官等ヲ改正シ一等ヲ親任トシ二等ヲ一等トシ三等ヲ二等トシ四等以下ヲ順次繰上ケ八等ニ止ム其親任セラレタルモノ及一等二等ヲ勅任官トシ三等以下ヲ奏任官トス

明治二十五年十一月十九日　宮内大臣子爵土方久元

奉勅

宮内省達甲第六號參照

宮内省達甲第四號（明治二十四年十二月二十二日）抄錄

一宮内高等官等ヲ廢シ更ニ官等九等ヲ設ケ一等ヨリ三等マデヲ勅任トシ四等ヨリ九等マデヲ奏任トス

一宮内大臣内大臣侍從長八一等式部長掌典長皇太后宮大夫皇太后宮大夫ハ二等親族女學校長ハ三等トシ其他從前ノ官制ニ於テ勅任トアルハ二等主事勅任一等トアルハ三等奏任一等トアルハ四等トス以下之ニ準ス

○司法省告示第六十五號

和歌山地方裁判所管内妙寺區裁判所明治二十五年十一月二十五日ヨリ裁判事務ヲ取扱フ

明治二十五年十一月二十一日　司法大臣伯爵山縣有朋

○司法省告示第六十六號

水戸地方裁判所管内水戸區裁判所管谷出張所明治二十五年十一月二十一日ヨリ開廳ス

明治二十五年十一月二十一日　司法大臣伯爵山縣有朋

○逓信省告示第二百八十一號

來ル十二月一日ヨリ陸奥國福岡郵便局ニ電信取扱ヲ開キ福岡郵便電信局ト改稱ス

明治二十五年十一月二十一日　逓信大臣伯爵黑田清隆

○警視廳告示第十六號

東京府下ニ於テ牛疫發生蔓延ノ兆候アルニ付神奈川縣ニ於テハ當府下ヲ發シ若クハ經過シタル生牛羊及生肉生皮ノ輸入德島縣ニ於テハ同畜牛ノ輸入香川縣ニ於テハ同畜牛ノ輸入ヲ停止シ猶ホ生肉ノ輸入ハ所轄警察署又ハ分署ニ屆出檢査ヲ受ケシムル旨通知アリ

明治二十五年十一月二十一日　警視總監園田安賢

○東京市告示第五十三號

淺草區二級撰出市會議員ニ付本月二十九日淺草公園內傳法院ニ於テ深川區二級撰出市會議員一名闕員ニ付同日深川區役所ニ於テ其補闕撰擧ヲ行フ二投票差出時限ハ同日午前八時ヨリ正午十二時迄トス

明治二十五年十一月二十一日　東京府知事富田鐵之助

○東京市告示第五十四號

區會議員半數改撰及定員增加ニ付本月二十八日三級撰擧ヲ行ヒ同二十九日二級撰擧ヲ行ヒ同三十日一級撰擧ヲ行フ

投票差出時限ハ三級ハ同二十八日午前八時ヨリ午後二時迄二級及一級ハ各當日午前八時ヨリ正午十二時迄トス

撰擧ヲ行フヘキ議員ノ數及場所左ノ如シ

明治二十五年十一月二十一日　東京府知事富田鐵之助

撰擧ヲ行フヘキ議員ノ數		撰擧ノ場所
麻布區	同	麻布區會議場
赤坂區	同	赤坂區役所
麹町區	同	麹町區會議場
神田區	同	神田區役所
日本橋區	同	日本橋區役所
京橋區	同	京橋區會議場
芝區	同	芝區役所
麻布區	同	麻布區會議場
赤坂區	同	赤坂區役所
四谷區	同	四谷區役所
牛込區	同	市谷左内坂町 練兵場
小石川區	同	小石川區役所
本郷區	同	本郷區役所
下谷區	同	下谷區會議場
麹町區	同	麹町區會議場
本所區	同	本所區會議場
深川區	同	深川區役所

雜報

○自轉車の世界一週　五六年前米人スチープンス氏が自轉車にて世界一週を企て印度の內地及び支那內地等を單身獨行して蛮人の喰殺を博せしことあり爾來同樣の企てを爲すもの少からず現に數日前紐育より登足するとのことなるが今後は知らず今日迄では支那中央亞細亞を橫斷して實際名の如く自轉車通過を爲せしを聞かざりしに北支那日々新聞に載せたる南京發電報に依れば定府よりの通信に據れば米人二名近頃此壯途を企て〳〵既に同府へ達したるものの一名をサクトルヘンドと稱して去年秋土京コンスタンスカハッド、メルヴ、ボタンユケンドに於て去年在して世人の未だ知らざるの少からず同所を發して支那領西比利亞の鄂倫留の後出發して支那領に於て露領西比利亞の鄂倫留の長城に沿ひ進むみと殆んど府へ出たるものなり其餘內地旅行の危險不便なる の經驗なれば見合して然も兩氏は物の數とせず撰び付けるみとを得る丈は丈け素より不知案內の地なれば難を感ぜずゴビ砂漠も破れ尾能く自轉車にて通過し用ひざりしは露領トランス尚ほ保定府より北京に出を全ふする筈なりと云ふ

○支那黃河の洪水　にて非常の慘況を極たり寶地を見聞したる或る人の說は一昨年に比して水量の雖溢は同年の如く甚だしく中に沒したるものと一致して二種とす即ち一は堤防破壞せざる地方に於て水溢せざる限り總て水なれば堤防を漸くにして減水するを待ずして汚水を飲み且つ腐敗して家屋田園悉くもの變眞なるを知るべし行するならん現に疫を以は固より慘狀とするに目も當られぬ苦みなり

ひを待つる所なるが決して附實河修繕費として下附使用するを得ば殆んど

に云ふ所なり上よりは額を附與すれども下に

けの修繕を爲して願み年の長日月を要し大工にして流失す恒びきに付ては賽の攝種を妨

りしが思ひの外水量の差支（なかりしよし）

○東京商業會議所　會開設地の事に關して

地方的の考へを去り若かずとの意見にて不

の出來次第總會を開く

合會にて議決せしめ

に附すべしと云ん